

半田運河蔵の街・ごんぎつねの里地区

(愛知県半田市)

- 計 画 期 間 平成 22 年度～26 年度
- 面 積 962.5 h a
- 交付対象事業費 2,768.9 百万円
- 市人口 118,685 人 (地区内人口 46,285 人)

ポイント

住んでよく 訪れてよい 賑わいある都市環境の形成
～半田の歴史・文化が感じられる暮らし・憩い・回遊
空間づくり～

地区概要

本市の象徴である「山車・蔵・南吉・赤レンガ」に関連する
観光資源の整備を行い、観光客や市民が交流し、賑わいある
まちづくりの推進を図る。

目 標

半田の歴史と文化が感じられるまち～歴史文化の伝承と観光活用～
歩きやすく賑わいある中心市街地の形成～市街地回遊ネットワークづくり～
生涯を通じて安全・安心・快適に暮らせるまち～災害に強く都市機能に恵まれた豊かな生活文化の充実～

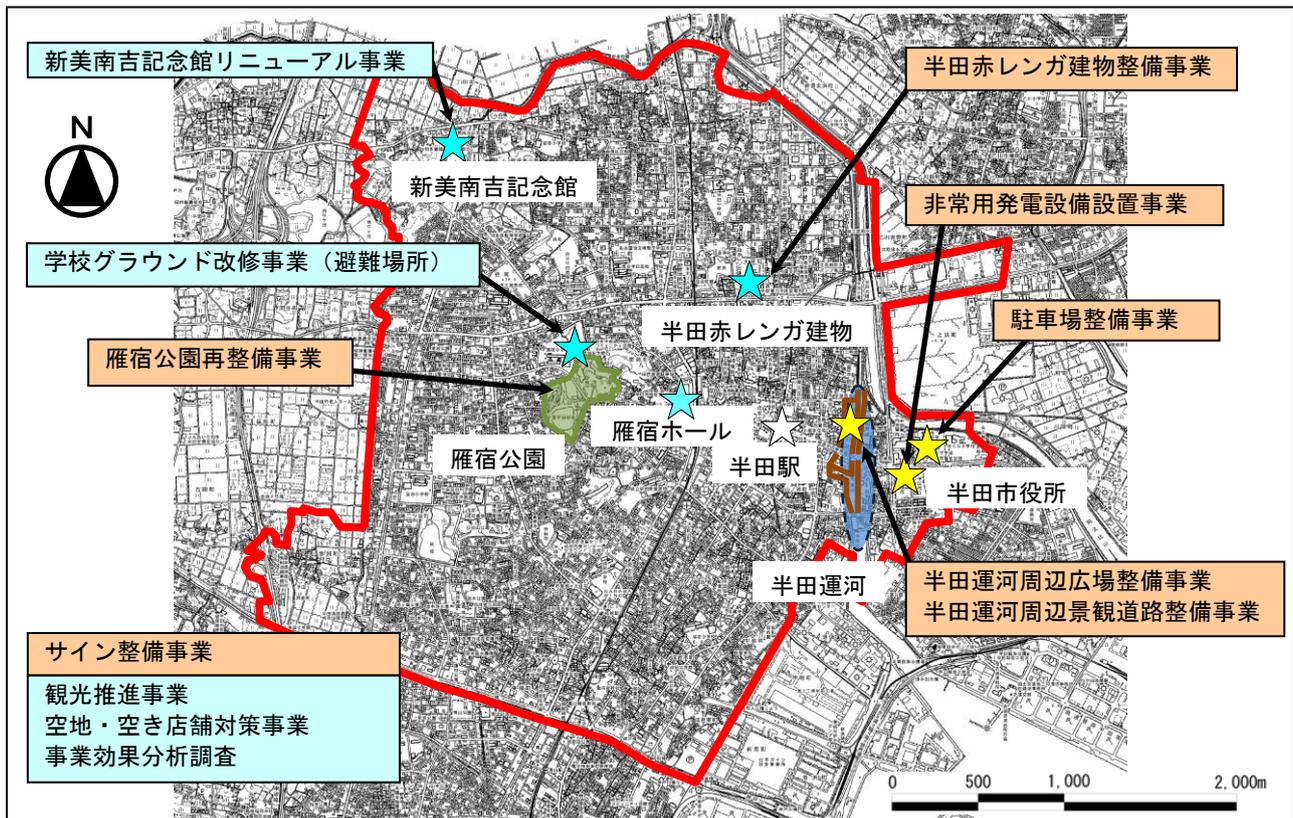
指 標

博物館「酢の里」・國盛 酒の文化館・新美南吉記念館の来場者数	191,950 人/年	H20	→	218,710 人/年	H26
知多半田駅や最寄駅周辺の整備、商業やサービス業また観光の振興に対する満足度	-1.56Pt	H20	→	-0.59Pt	H26
安全な避難路や避難場所の分かりやすさや充実度に対する満足度	-1.44Pt	H20	→	-0.17Pt	H26

観光資源の整備により交流を促し、賑わいづくりを進めるため、主要な観光施設の来場者数を指標とした。また、まちの回遊性や道路、広場などの基盤整備、避難場所の耐震化による満足度を向上させるため、アンケート結果を定量化し、指標とした。

事業内容

基幹事業 (2,004.0 百万円) → 公園 (1 か所)、半田運河周辺広場整備事業、サイン整備事業、半田運河周辺景観道路整備事業、半田赤レンガ建物整備事業など
提案事業 (764.9 百万円) → 学校グラウンド改修事業 (避難場所)、観光推進事業、新美南吉記念館リニューアル事業、空地・空き店舗対策事業など



新美南吉記念館リニューアル事業

半田赤レンガ建物整備事業



新美南吉記念館

非常用発電設備設置事業

学校グラウンド改修事業 (避難場所)

半田赤レンガ建物

駐車場整備事業

雁宿公園再整備事業

雁宿ホール

半田駅

半田市役所

雁宿公園

半田運河

半田運河周辺広場整備事業
半田運河周辺景観道路整備事業

サイン整備事業

観光推進事業
空地・空き店舗対策事業
事業効果分析調査

0 500 1,000 2,000m

地区の現況と課題

本地区には、酢や酒の醸造蔵が建ち並び、江戸時代には海運業が盛んであった半田運河周辺地区や明治時代にビール工場として建築された国の登録有形文化財の半田赤レンガ建物、新美南吉の童話の舞台となった岩滑地区など、本市を代表する歴史・文化的資源が数多く存在している。歴史・文化的資源が豊富にあるものの、持続的に観光客を誘致するための基盤整備が課題となっている。また、来訪者が迷わず快適に移動できるようにするため回遊性の向上が課題である。

提案事業の特徴

観光推進事業（観光案内板設置事業）：半田を訪れる人々の回遊性を高め、目的地への移動がしやすくなるよう主要な施設に観光案内板の設置を行った。

観光推進事業（新美南吉生誕 100 年記念事業）：半田市出身の児童文学作家「新美南吉」が平成 25 年に生誕 100 年を迎えることを機にキャンペーンや南吉文学に因んだ各種の記念事業を展開した。これにより平成 25 年の新美南吉記念館来館者は 12 万人を超え（通常 5 万人強）、「南吉のふるさと半田」を広く PR することができた。

計画策定プロセス

庁内検討組織の設置：庁内関係部局による準備会を設置し、横断的に事業の洗い出しを行いながら整備計画の策定を行った。

市民意識調査の実施：アンケートによる市民意識調査を行い、目標とする指標の設定に活用した。

榊原純夫 半田市長のコメント

都市再生整備計画事業によって半田赤レンガ建物や半六庭園などが整備され、半田運河周辺では民間の力によってミツカンミュージアム（MIM）や旧中壱半六邸が整備されるなど市内の観光拠点が次々にオープンしたことにより、本市では平成 27 年度を観光元年として観光客へのおもてなしに努めて参りました。その結果、観光客も前年度に比べて 38 万人増加し、多くの方々に本市の魅力を感じていただくことができました。

今後も本市の象徴である「山車・蔵・南吉・赤レンガ」などの観光資源を活かし、賑わいと活気に満ちたまちづくりを進めて参りたいと考えております。

NPO 法人半田市観光協会事務局長 松見直美のコメント

観光文化施設とそれを繋ぐ道路等の整備により、平成 27 年度、半田市の観光催事の広報は、節句行事をはじめとしたイベントのスポット告知から、四季ごとの魅力を楽しんでいただく長期型へと変わりました。

各施設が創意工夫を凝らした季節感のあるディスプレイやイベントを行うようになり、醸造業が盛んだった半田の歴史から生まれた「はんだ醸すごはん」や「食べ歩きスイーツ」も好評を博し、まち歩きがより魅力的になったことでロング PR が可能になりました。

ソフト事業のベースである「はんだ蔵のまちネットワーク」（事務局：NPO 法人半田市観光協会）の月例情報交換会への参加者は、平成 20 年 10 月の発足当時の 2 倍以上になり、半田運河周辺の賑わい創出のため、活発な情報交換が行われています。



▲半田運河周辺の景観



▲半田運河の観光拠点となる半六庭園



▲常時公開が可能となった半田赤レンガ建物



▲再整備オープン時の様子



▲新美南吉生誕 100 年記念事業 開幕祭